

6. 河川空間の利用状況

6-1. 河川の利用状況

平成5年度～平成15年度河川利用実態調査によると、鳴瀬川及び吉田川の利用形態は堤防の散策等による利用が多い傾向が調査の結果から伺える。また、利用場所としては高水敷が多い傾向である。

平成5年度から平成12年度調査結果において、年間の全体的な利用者数の傾向を見ると増加傾向にあるが、平成15年度に減少している。

これは、平成15年に起こった宮城県北部地震による地震災害等の影響により、利用者数が減少したためと思われる。

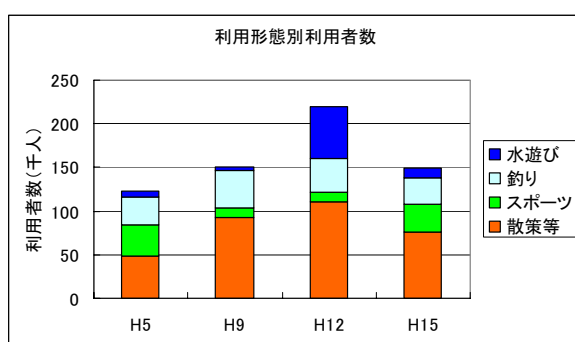


図 6-1 利用形態別利用者数

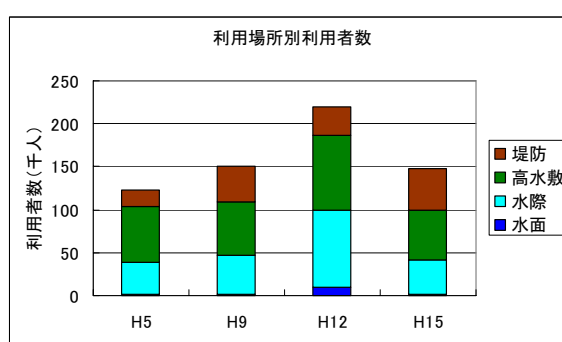


図 6-2 利用場所別利用者数

利用形態別利用者数表(単位:千人)

調査年度	項目				
	合計	散策等	スポーツ	釣り	水遊び
H5	123	48	36	32	7
H9	151	92	12	43	4
H12	220	111	10	39	60
H15	149	76	32	30	11
平均	161	82	23	36	21

利用場所別利用者数表(単位:千人)

調査年度	項目				
	合計	水面	水際	高水敷	堤防
H5	123	2	37	64	20
H9	151	1	46	62	42
H12	220	9	90	87	34
H15	148	2	39	59	48
平均	161	4	53	68	36

6-2. 河川敷の利用状況

鳴瀬川における河川敷の占有面積は、全体で約 260ha である。この内訳は、以下のとおりであり、採草地在最も多く 72% となっており、公園や運動場としては合計で 10% 弱である。

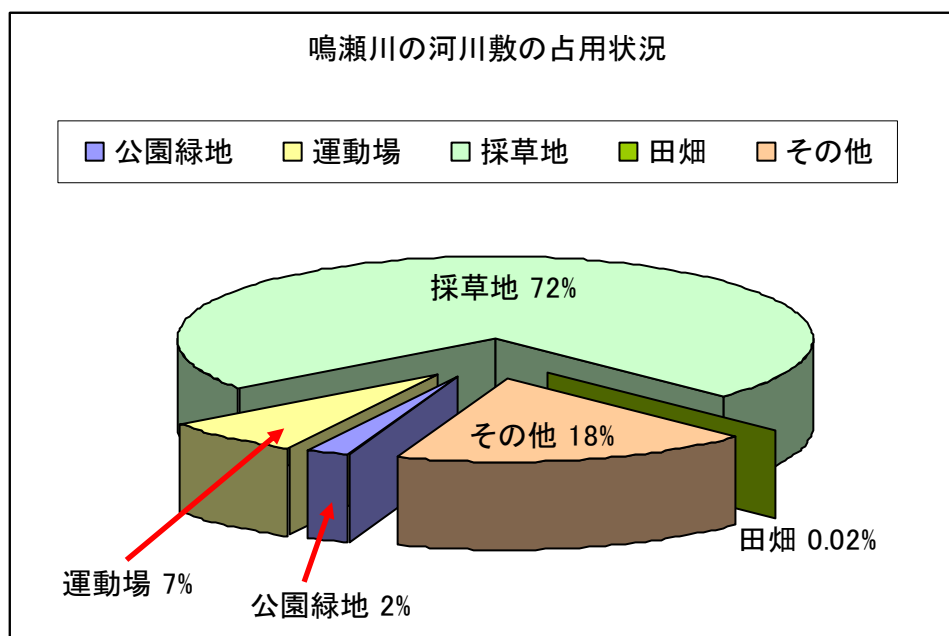


図 6-3 鳴瀬川の河川敷の占有状況